

デザイン工学研究科

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学研究科では、概ね全ての項目において、適切な取り組みが行われている。特に、多様な経験を有する幅広い人材として、外国人留学生を受け入れることに関しては、交換留学生を毎年受け入れ、英語での授業を実施するという優れた取り組みが行われている。また、外国人留学生の支援体制を整えるために SGU デザイン工学研究科国際プログラム検討委員会を設置したことも評価できる。今後の成果が期待できる。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

交換留学生の受け入れや英語による授業の実施は継続して行っていく。SGU デザイン工学研究科国際プログラム検討委員会と研究科教授会でプログラムの設置を検討した結果、新たなプログラムを立ち上げるのではなく、研究科にある既存のグローバルな取り組みを整理し、それらをより発展させる形で対応するのが効果的であるとの結論に達した。2019年度の年度目標にこれらを反映させ目標を達成する施策を講じる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 2010年度の研究所開設当初からの一貫した教育課程編成・実施基本方針として、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ運用している。これらは、カリキュラムポリシーやカリキュラムツリー、履修案内として履修ガイドやホームページ、大学院案内、募集要項に記載され、これに基づいたコースワークとリサーチワーク・修了要件が明示されている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・デザイン工学研究科 URL : http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html (2019年5月着信確認) ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド ・大学院案内 (デザイン工学研究科)	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 ・デザイン工学研究科 URL : http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html (2019年5月着信確認) ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド ・大学院案内 (デザイン工学研究科)	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 必修科目としてプロジェクト科目、選択科目として専門科目がそれぞれ配当され、コースワークとリサーチワークの適切な組み合わせによる教育が行われている。また博士学位論文の審査と最終試験の合格を修了要件として設定している。これによってリサーチワークで進める研究分野の知識だけではなく、広い分野にわたる高度な学識と総合デザイン能力を備えた人材を育成する教育プログラムとなっている。システムデザイン専攻では、専門科目のうち First major に加えて Second major として他分野の専門科目も履修することを修了要件としている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・デザイン工学研究科 URL : http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html (2019年5月着信確認) ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド ・大学院案内 (デザイン工学研究科)	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

【修士】

- ・本研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻にはスタジオ科目やプロジェクト科目が配当されている。
- ・本研究科修士生が、激動する自然・社会環境に順応しながら総合デザイン能力を発揮し社会に貢献できるように、教育研究内容を随時更新しながら学術・技術を教授し、総合デザイン力を修得した高度な専門職業人を育成している。
- ・研究科の学生が作品の制作実習をより効果的に行うため、学部と連携して、3Dプリンタやレーザーカッターなどのものづくり環境の整備に必要な先端装置の導入を行った。2018年度の特別事業（備品等購入）で優先的に予算確保を行い、造形製作室やデジファブセンターの整備を実施した。

【博士】

本研究科に関わる専門分野における学術進化・技術革新は著しく、各教員は最前線の情報を修得しながら教材開発と先端的研究課題の設定に努めている。専門科目の高度化に対応するため、各専攻には専門科目とプロジェクト科目を適切に組み合わせて配当している。本研究科修士生が総合デザイン能力を発揮し社会に貢献できるように、高度な総合デザイン力に基づく企画開発能力を備えた教育者、研究者、指導者など専門特化型人材を育成する仕組みとなっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学研究科 URL : <http://www.design.hosei.ac.jp/gs/concept/policy.html> (2019年5月着信確認)
- ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド
- ・大学院案内 (デザイン工学研究科)

⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

S A B

※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

【修士】

- ・「海外研修プログラム 1 (建築学専攻科目)」では米国・南カリフォルニア建築大学を、「海外研修プログラム 2 (全専攻共通科目)」では米国・ユタ大学を、それぞれ提携校として交換プログラムを継続的に実施し、本学大学院生を派遣するとともに提携校学生を受け入れて教育研究交流を深めている。
- ・チェコ工科大学、ベルサイユ大学から交換留学生を継続的に受け入れ、授業を英語で実施している。
- ・システムデザイン専攻では南フィリピン大学で、個人レッスン 90 時間・グループレッスン 60 時間におよぶ「技術英語演習」(C 期・50 日間)を実施している。
- ・全学が運用するグローバル化推進の諸制度 (留学、海外活動などへの助成制度) への応募を学生に奨励している。
- ・学生の国際会議での発表や海外調査活動を奨励しており、2018 年度は延べ 29 名の修士課程学生が国際会議で発表を行い、14 名の修士課程学生が海外調査活動を行った。

【博士】

博士課程学生にとって、国際会議での発表や海外での調査活動はグローバルに活躍する研究者として必須であり、積極的な発表を奨励している。2018 年度は延べ 5 名の博士課程学生が国際会議で発表を行い、3 名の博士課程学生が海外調査活動を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学研究科教授会資料

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

※履修指導の体制および方法を記入。

【修士】

- ・4月にガイダンスを実施している。
- ・外国人留学生に対して、チューター制度を利用して指導教員とチューターが履修上の助言を与えている。
- ・教員は研究指導のみならず学生の履修上の相談にも随時応じている。
- ・建築学専攻においては、国際的な建築教育 (5 年間の建築教育) を満たすことを保証する JABEE 認定建築系学士修士課程プログラムの対象者 (スタジオ系志望者および JABEE 認定プログラム履修志望者) 全員に対して複数教員の個人面談により研究・履修計画を指導している。

【博士】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・4月にガイダンスを実施している。 ・外国人留学生に対して、チューター制度を利用して指導教員とチューターが履修上の助言を与えている。 ・教員は研究指導のみならず学生の履修上の相談にも随時応じている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド ・デザイン工学研究科教授会資料 	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p>	
<p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを記載し、年度初め4月のガイダンスに際し学生に配布指導している。 ・各専攻では、4月のガイダンス時に論文審査スケジュールを配布・掲示するとともに、指導教員から学生へ周知している。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修ガイドに履修登録・成績通知・進級・修了発表など一連の履修手続きを示すとともに、研究指導計画、修了要件、学位論文審査基準、論文作成要領などを記載し、年度初め4月のガイダンスに際し学生に配布指導している。 ・各専攻では、4月のガイダンス時に論文審査スケジュールを配布・掲示するとともに、指導教員から学生への周知している。 	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド ・論文審査スケジュール配布資料 	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p>	
<p>【修士】</p> <p>履修ガイドに記載された「本研究科の各専攻会議は修士の学位申請に対し、その受理の可否を決定し審査にあたる主査と1人以上の副査を定める。」のルールに従い、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文の執筆指導が適切に行なわれている。また「履修から進級および修了に至るコースワークにおいても主査と1人以上の副査の下で指導を受ける」こととなっている。</p>	
<p>【博士】</p> <p>履修ガイドに記載された「本研究科の各専攻会議は博士の学位申請に対し、その受理の決定および論文審査のため、本研究科内に審査委員会を置く。審査委員長は原則として研究科長が務める。・（中略）・審査委員会における審査の結果、受理が決定した場合には、審査委員会の中に主査と2人以上の副査からなる審査小委員会を設ける。小委員会では、学問的な内容に関する審査と並んで、以下の諸点（省略）に関する試験または試問及び評価を行う。」のルールに従い、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文の執筆指導が適切に行なわれている。また「履修から進級および修了に至るコースワークにおいても主査と1人以上の副査の下で指導を受ける」こととなっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p>	
<p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Webシラバスには成績評価の方法と基準が明記され、成績評価の公平性を確保している。 ・成績評価に関する問い合わせがあった場合には、担当教員が事務室と連携しながら適切に対応する。 ・授業外学習の状況は、教員毎に様々な方法で確認される。課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより、授業外学習の実態が正確に把握され、その評価は単位認定に反映される。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・建築学専攻では成績評価に関する根拠資料として、全科目の成績評価と単位認定に関する資料が JABEE 室に記録・保管されている。 ・学生が留学して留学先機関の授業を受講する場合には、本研究科と留学先機関のシラバスを比較し、専攻主任が単位読み替え原案を作成し専攻会議で審議の上、単位認定の是非を判断している。 	
【博士】 <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバスには成績評価の方法と基準が明記され、成績評価の公平性を確保している。 ・成績評価に関する問い合わせがあった場合には、担当教員が事務室と連携しながら適切に対応する。 ・授業外学習の状況は、教員毎に様々な方法で確認される。課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより、授業外学習の実態が正確に把握され、その評価は単位認定に反映される。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス 	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。 【修士】 <p>学位論文審査基準は、履修ガイドに明記され、4月のガイダンスの際に専攻主任から学生に説明・周知されている。</p> 【博士】 <p>学位論文審査基準は、履修ガイドに明記され、4月のガイダンスの際に専攻主任から学生に説明・周知されている。</p>	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※箇条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 <p>学位論文審査基準に基づき学位が授与されている。学位論文の可否は、各専攻の審査会の結果を経て、専攻会議と研究科教授会で判定されている。学位授与状況は専攻会議・研究科教授会の会議資料として整理され、紙媒体と電子データにより保管される。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学研究科教授会資料 	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組み概要を記入。 【修士】 <p>修士学位論文に関しては、履修ガイドに記載された4項目の学位論文審査基準の充足状況を審査会で厳密に審査し、可否を専攻会議で審議して判定している。</p> <p>学位の水準を保つため、学生へ各学協会等での研究発表を奨励するとともに、優れた業績に対して学生に授与される学術賞は教授会に報告され、学生の研究水準を教授会で確認している。</p> 【博士】 <p>博士学位論文に関しては、当該学生の成果が学術論文に第一著者として1編以上（課程博士）あるいは2編以上（論文博士）が原著論文として掲載（決定）済みであることが要求される。なお、学術論文誌と同等の水準を有する単著の学術図書であれば原著論文に読み替えることができる。これら基準の取り扱いは履修ガイドに明記され、この基準を満たさない場合には不合格と判定する。</p> <p>学位の水準を保つため、学生へ各学協会等での研究発表を奨励するとともに、優れた業績に対して学生に授与される学術賞は教授会に報告され、学生の研究水準を教授会で確認している。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。 【修士】 <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科の各専攻会議は修士の学位申請に対し、その受理の是非を法政大学学位規則に照らして決定し、審査にあたる 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>主査と1人以上の副査を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主査・副査は研究指導を通して提出された論文が学位に値するか否かを判断し、可の場合には審査会での審査に付す。 審査会では主査・副査を含む全教員が法政大学学位規則と本研究科が定める学位論文審査基準に照らして修士論文を審査し、専攻会議により可否判定案を審議決定する。 研究科教授会は専攻会議から提案される可否判定案を審議し、合格と判定された場合に当該学生へ修士の学位が授与される。 これらの手続きと責任体制は履修ガイドに明記されている。 	
<p>【博士】 学位規則の通り</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学学位規則 法政大学大学院デザイン工学研究科履修ガイド 	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各専攻では就職担当教員を中心にキャリアセンターの協力を得ながら大学院生の就職や進学状況を指導・把握・管理し、修了生に関しては同窓会組織との情報共有に努めている。 各専攻の研究室単位でも学生の就職や進学情報を収集し、各専攻が集約・管理している。 就職や進学状況の情報は電子データとして保管され、個人情報には厳格に管理されている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各専攻会議資料 	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習成果を測定するために GPA を導入している。これは履修した科目の成績評価に基づいたものであり、各分野の特性に応じているといえる。 建築学専攻では修士論文・修士設計の中間発表を行い、修士論文・修士設計の課題設定が適切であるかを確認している。都市環境デザイン工学専攻では原則C期（10～11月）に研究室または系単位での中間発表を行い、修士論文の課題設定や進捗状況が適切であるか確認している。システムデザイン専攻では修士課程2年の9月初旬に修士論文の中間審査を行い、修士論文への学生の取り組み状況が適切であるか確認している。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習成果を測定するために GPA を導入している。 博士課程学生の成果は学術論文等への原著論文で確認している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科では成績評価に基づいて GPA を算出し、学生の学習成果を的確に把握・管理している。 GPA を基準にして成績優秀者表彰や就職先への学校推薦対象者を選考している。 各専攻における学習成果とその評価は、専攻主任会議において随時共有され、適正な評価となるように分析している。 建築学専攻では、優秀修士設計選考会（大江宏賞公開講評審査会）において外部審査員の参加の下に学習成果を評価している。 都市環境デザイン工学専攻では、修士論文審査会における評価結果に基づいて最優秀論文賞・優秀論文賞を各一編選考し表彰している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> システムデザイン専攻では、プロジェクト科目で制作した作品を学外コンペに応募し、作品の創造性や完成度等が外部審査員から評価されている。また展示会などに積極的に参加し、研究成果や作品の展示を行っている。 	
【博士】 <ul style="list-style-type: none"> 研究科では成績評価に基づいて GPA を算出し、学生の学習成果を的確に把握・管理している。 各専攻における学習成果とその評価は、専攻主任会議において随時共有され、適正な評価となるように分析している。 研究成果は学術論文等への原著論文に対するピアレビュー方式やコンペへの作品に対する審査員により評価されている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 各専攻会議資料 各専攻 HP 	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
【修士】 <ul style="list-style-type: none"> 各専攻では学習成果の定期的検証とそれに基づく教育課程の内容・教育方法の改善・向上を図っている。研究科教授会の承認を要する事項に関しては教授会に諮り、学務部所掌の事項に関しては研究科事務との連携によって改善・向上を図っている。 修士論文の審査は専攻教員全員の参加によって実施され、学習成果を検証するとともに教育課程の内容・方法の改善・向上に取り組んでいる。 建築学専攻は建築学科と合同でスタジオ担当の専任・兼任教員全員参加の下にデザインスタジオ連絡会議を年度末に実施し、教育課程の検証と改善方を審議している。修士論文に加えて修士設計も全専任教員が審査するとともに、大江宏賞公開講評審査会（優秀修士設計選考会）では外部審査員の参加の下に学習成果を検証している。専攻会議では随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。 都市環境デザイン工学専攻では、指導教員別あるいは系単位で実施される研究室ゼミにおいて学習成果を随時点検している。学部と合同で実施する講師懇談会（年1回開催）および拡大教室会議（年1回開催）には、専任・兼任教員が参加し、学習成果の検証方法、教育課程の改善・向上方策に関して意見交換・情報共有を図っている。専攻会議では随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。 システムデザイン専攻では、学部と合同で実施する講師懇談会（年1回開催）に専任・兼任教員が参加し、学習成果の検証方法、教育課程の改善・向上方策に関して意見交換・情報共有を図っている。専攻会議では随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。 	
【博士】 <ul style="list-style-type: none"> 各専攻では学習成果の定期的検証とそれに基づく教育課程の内容・教育方法の改善・向上を図っている。研究科教授会の承認を要する事項に関しては教授会に諮り、学務部所掌の事項に関しては研究科事務との連携によって改善・向上を図っている。 博士学位論文の審査は、主査・副査を含む専攻の教員の参加によって実施され、学習成果を検証するとともに教育課程の内容・方法の改善・向上に取り組んでいる。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 <p>授業改善アンケート結果は、専攻会議で整理・分析され、教授会にて報告・確認されている。各教員は、Web シラバスに前年度のアンケート結果に対する改善策を記入することが義務化され、Web 上に公開し恒常的な教育改善を図っている。</p>	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> Web シラバス 	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・学生の実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進めるため、学部と連携し、造形製作室の活用方法を検討し、2018年度の特別事業（備品等購入）で優先的に予算確保を行い、造形製作室やデジファブセンターの整備を実施した。	1.1 ④

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・大学院のグローバル化を推進するため、海外研修プログラムを準備し、学生の国際会議への参加も奨励している。しかし、プログラム実施に必要な費用が学生に大きな負担となっており、費用面で参加を見合わせる学生が多い。2018年度は「海外研修プログラム1」において参加希望者がプログラム実施のための最少催行人数を満たせず、実施されなかった。参加希望者が気軽にプログラムの醍醐味を味わうことができるよう、奨学金の拡充やプログラム内容の工夫が課題である。	1.1 ⑤

2 教員・教員組織

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行なうための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDに資する学内外の様々な研修会・講演会・ワークショップに教員を派遣し、研究科あるいは専攻の会議体で活動報告がなされるとともに教育改善に努めている。 ・教員はFDに資する書籍・文献を収集・学習し、専攻（教室会議）など研究科の様々な会合において修得した知識・情報を開陳し教育改善に反映している。 ・教員は、授業改善アンケートの結果に基づき授業改善計画を策定してWebシラバス上に公表するとともにし、次年度の授業改善に活かしている。 ・建築学専攻では、JABEE認定建築系学士修士課程プログラムを継続・改善するための取り組みをFD活動の一環に位置付けている。具体的には、シラバスの点検・確認・改善、学習アウトカムズに関するデータ収集、成績評価方法の共有などを通して教育内容と方法を継続的に改善している。デザインスタジオの合同講評会や学部・専攻で合同実施するデザインスタジオ連絡会議は教育改善効果をもたらしている。 ・都市環境デザイン工学専攻では、FD関連のシンポジウム・講演会等への参加を推奨し、FD活動報告書の提出を義務づけている。また、次のようなWGを設置し、その活動成果を専攻会議や兼任講師を交えた講師懇談会、拡大教室会議で報告している。教育内容WGでは、授業・カリキュラムの改善案を検討し、教室会議で提案・実施する。学習・教育到達目標WGでは、育成しようとする技術者像を示し、これを実現するための学習教育到達目標を定める。教育環境WGでは、学習・教育到達目標を達成するための教育環境の質を保持・改善するための方策を検討する。その他に、教育改善WG、広報・資料WG、卒業生連携WGを設置している。 ・システムデザイン専攻では、教育改善を果たすための教員間の情報共有、教育手法の相互啓発に関する意見交換を重視している。全教員が分担するプロジェクト科目の教育内容に関する会議を定期的に行い、受講学生の個性・特徴を活かした効果的アクティブラーニングの実施方法を集中的に議論している。 <p>【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第22回大学評価セミナー、2018年4月26日（木）13：30～14：30、法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー26階A会議室、専任教員1名（SD） ・JABEE教育プログラム認定・審査のための受審校研修会、2018年5月12日、土木学会講堂、専任教員1名（都市） ・2018年度第1回自己点検懇談会、2018年6月14日（木）13：30～16：00、法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 26階A会議室、専任教員2名（建築、SD） ・第25回社会工学セミナーの聴講、2018年7月11日、法政大学市ヶ谷田町校舎、専任教員1名（都市） ・平成30年度ICT利用による教育改善研究発表会、2018年8月9日（木）、東京理科大学森戸記念館、専任教員1名（SD）と兼任講師1名（SD） 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・黒部川における水理学・河川環境工学の教材収集、2018年9月27-29日、黒部川、専任教員1名（都市） ・利根川水系吾妻川における水理学・河川環境工学の教材収集、2018年10月3日、吾妻川ならびにハッ場ダム、専任教員1名（都市） ・第23回大学評価セミナー、2019年1月24日（木）15:30～17:00、法政大学市ヶ谷キャンパス九段校舎3階第1会議室、専任教員2名（建築、SD） ・平成30年度大学評価シンポジウム（大学基準協会主催）、2019年1月28日（月）11:00～17:00、ガーデンパレス東京（お茶の水）、専任教員1名（SD） ・情報メディア教育研究センターシンポジウム2019への参加、2019年2月28日、法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナードタワー、専任教員2名（都市、SD） ・2018年度第2回自己点検懇談会、2019年2月28日（木）13:00～15:30、法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナードタワー 26階A会議室、専任教員2名（建築、SD） ・2018年度システムデザイン専攻授業打ち合わせ会、2019年3月6日（水）17:00～19:00、法政大学市ヶ谷田町校舎1階SDスタジオ、専任教員9名（SD）と兼任講師40名（学部担当を含む） ・法政大学スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウムへの参加、2019年3月1日、法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎、専任教員1名（都市） ・2018年度都市環境デザイン工学専攻・講師懇談会、2019年3月11日（月）17:30～18:30、法政大学市ヶ谷田町校舎、専任教員9名（都市）と兼任講師34名（学部担当を含む） ・2018年度建築学専攻・スタジオ連絡会議、2019年3月13日（水）15:00～17:00、法政大学市ヶ谷田町校舎、教員40名（学部・専攻合わせて） 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動報告書 ・WG活動報告書 	
<p>②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人客員教員の受入れ（2016年度1名、2017年度3名、2018年度1名） ・在外研究の奨励と計画的執行 ・海外研修プログラムを利用したワークショップの開催 ・国内外研究集会の主催や参加 ・国内外研究者との各種学術交流 ・科研費など外部資金の応募・獲得 ・学外コンペへの応募と受賞 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	持続的かつ効果的なグローバル化を推進する。
	年度目標	海外研修プログラムの検証を行う。
	達成指標	検討し報告書を作成
	年度末	教授会執行部による点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	海外研修プログラムの最小催行人数を検討するなどの検証を行い、海外研修プログラムの適正化を図った。
		改善策	今後も海外研修プログラムの検証を続ける。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	海外研修プログラムの検証を行ったことは評価できる。持続的効果的にグローバル化を推進するためには、常に検証することが必要である。
		改善のための提言	今後も海外研修プログラムの検証を続ける。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	年度末報告	中期目標	実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進める。
		年度目標	学部と連携し、造形製作室の活用方法を検討し、年度の特別事業（備品等購入）で優先的に予算確保を行い、造形製作室の再整備を実施する。
		達成指標	造形製作室の利用方法の明文化と設備の導入
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	学部と連携し、特別事業への申請を造形製作室の備品購入に一本化することで、備品導入の予算を確保した。2019年度に順次導入される。利用方法に関しても学部と連携し、ワーキンググループで利用ルールを策定した。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	造形製作室の整備が進み、その利用ルールについても道筋が立った点は評価できる。
		改善のための提言	造形製作室については、教育効果について引き続き調査していくことが大切である。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	年度末報告	中期目標	学習成果の公表を促進する。
		年度目標	修士論文、修士設計の成果公表（学会、コンクール出展など）の実態を把握する。
		達成指標	検討し報告書を作成
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	成果のうち賞を受けたものを教授会で共有した他、HPで公開することで学習成果の公表を促進した。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	成果を共有・公開することで学習成果の公表が促進したことは評価できる。
		改善のための提言	—
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	年度末報告	中期目標	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める。
		年度目標	SGU 国際プログラム設置準備委員会を立ち上げ、設置のための実質的な準備を開始する。
		達成指標	設置準備委員会の立ち上げ
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	SGU 国際プログラム設置準備委員会立ち上げのためのワーキンググループで検討を進めたが、プログラム設置のための境界条件が整わず、設置準備委員会の立ち上げには至らなかった。
	改善策	SGU プログラムに関しては法人とも協議する。多様な経験を有する幅広い人材を受け入れ	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			るために有効な方策を SGU プログラムに限定せずに模索する。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	ワーキンググループで検討を進めたが、設置準備委員会の立ち上げに至らなかった。	
		改善のための提言	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れる方策は、SGU 国際プログラムに限らないので、法人と協議しながらより効果的な方策を模索する。	
No	評価基準	教員・教員組織		
5	中期目標	学務など事務的業務を省力化・簡素化・合理化する。		
	年度目標	研究科教授会の資料のペーパーレス化を行う。		
	達成指標	ペーパーレス化の実現		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	研究科教授会の資料を pdf で共有する形式とし、ペーパーレス化を実現した。	
		改善策	—	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		ペーパーレス化が実現したことは評価できる。		
改善のための提言	ペーパーレス化の持続も重要であるが、さらなる事務的業務の省力化・簡素化・合理化のために、各種手続き資料の整理なども促進すべきである。			
No	評価基準	学生支援		
6	中期目標	多様な学生に対してその特性に沿った支援を行うため、実態の把握し適正な支援方法を検討する。		
	年度目標	留学生のためのチューター制度の利用を促進する。		
	達成指標	チューター制度利用者数の増加		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	チューター制度の周知に努めた結果、留学生のチューター制度の再募集（9月）に学生が応募し採用された。	
		改善策	—	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		チューター制度利用者数が増加した点は評価できる。		
改善のための提言	チューター制度の利用を引き続き促進することも重要であるが、それ以外の支援方法についても検討する。			
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
7	中期目標	社会貢献、社会連携を推進加速するため、成果の見える化と窓口の明確化を進める。		
	年度目標	社会貢献、社会連携の成果集約と HP 等での公開を進める。		
	達成指標	成果の HP での公開		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	社会貢献、社会連携の成果を HP で公開した。	
		改善策	—	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		社会貢献、社会連携の成果を HP で公開した点は評価できる。		
改善のための提言	成果の公開を引き続き促進することも重要であるが、連携を推進するため、その窓口をわかりやすくしていく必要がある。			
【重点目標】				
重点目標：多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める				
重点目標を達成するために、SGU 国際プログラム設置準備委員会を立ち上げ、設置のための実質的な準備を開始する。				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【年度目標達成状況総括】

多くの年度目標は達成できたものの、重点目標として掲げていた多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりに関しては、予定していたSGU国際プログラム設置準備委員会を立ち上げに至ることが出来なかった。SGU国際プログラムに限らず、多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための方策を模索していく必要がある。

IV 2019年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】
1	中期目標	持続的かつ効果的なグローバル化を推進する。
	年度目標	(1)研究科のグローバルな教育研究内容の取り組みを調査整理する。 (2)効果的な取組みを抽出したロールモデルを検討する。
	達成指標	(1)調査結果の共有（教授会） (2)ロールモデルの作成
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】
2	中期目標	実習をより効果的に行うためのものづくり環境の整備を進める。
	年度目標	(1)学部と連携して、特別事業（備品等購入）による造形製作室の整備を完了し、利用規則を整備する。 (2)利用状況や利用実態を調査する。
	達成指標	(1)新たな造形製作室の供用開始と利用規則の随時改善 (2)利用状況や利用実態の調査結果の共有（教授会）。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関する事】
3	中期目標	学習成果の公表を促進する。
	年度目標	学生の国際的な活動について、その実態と成果を把握する。
	達成指標	活動実態の把握とその成果の共有（教授会）
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な経験を有する幅広い人材を受け入れるための仕組みづくりを進める。
	年度目標	(1)各専攻の人材受け入れ状況を調査し、国際的な人材の受け入れに関する効果的な施策を立案する。 (2)留学生数増加のための効果的な施策を立案実施する。
	達成指標	(1)調査結果と効果的施策の共有（教授会） (2)留学生数の1割増
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	別2教員9名（5名の凍結と4名の返還）の内、4名の返還が解除されたため、学部と連携した教員の配置と年齢構成に配慮した人事計画の見直しを進める
	達成指標	専攻（学科）毎の人事計画の立案と共有（教授会）
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	多様な学生に対してその特性に沿った支援を行うため、実態を把握し適正な支援方法を検討する。
	年度目標	留学生の支援状況とその対応について調査し、効果的な施策を立案する。
	達成指標	調査結果と効果的施策の共有（教授会）
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	社会貢献、社会連携を推進加速するため、成果の見える化と窓口の明確化を進める。
	年度目標	社会貢献や社会連携の成果を集約し、HP等での公開をすすめる。
	達成指標	成果のHPでの公開

【重点目標】

研究科の持続的かつ効果的なグローバル化を推進するため、各専攻のグローバルな教育研究内容の取り組みを調査整理し、効果的な取組みを抽出したロールモデルを作成する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

V 大学評価報告書

2018 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価
<p>SGU デザイン工学研究科国際プログラム検討委員会の結論として、既存のプログラムの整理拡充という方針が出されたことについては、グローバルに特化したプログラムと既存のプログラムが将来的には融合された状況を想定した場合、また教員負担の問題を考えた場合、一つの方策として評価できる。</p>
1 教育課程・学習成果の評価
①教育課程・教育内容に関すること
<p>デザイン工学研究科修士課程ではコースに共通あるいはコース別の科目を配置し、コースワーク・リサーチワークの適切な組み合わせが実現するようにカリキュラムが作成されている。博士後期課程でも授業科目は単位化され修了要件として明記されている。また、博士後期課程では、プロジェクト科目を中心とした研究指導體制が築かれている一方で、選択科目としての専門科目も設置され、コースワークの意義を強化している。専門分野の高度化に対応するために、授業内容の高度化に努めるだけでなく、3D プリンタなどの最新機器を導入することで、教育環境の刷新にも努めている。グローバル化推進のための対応としては、海外研修プログラムの設置、留学生の受け入れの他に、国際学会での発表の奨励を行っている。以上のことから、デザイン工学研究科では各点検項目について、十分な取り組みがなされていると評価できる。</p>
②教育方法に関すること
<p>デザイン工学研究科の履修指導は、4月のガイダンスと履修の手引きで行う一方、研究指導の担当教員が個別の対応も行っている。留学生には、チューター制度によって上級生からの履修サポートも行われている。研究指導は、履修ガイドに概要が示され、更に4月のガイダンス時に研究指導計画から論文作成要領まで書面で配布されている。研究指導計画に書かれている通り、主査と副査という複数教員体制で研究から論文完成までの指導が行われている。以上のことから、学生への履修指導・研究指導は適切に行われていると言える。</p>
③学習成果・教育改善に関すること
<p>デザイン工学研究科における成績評価・単位認定の方法と基準は、各科目のシラバスに明記され、成績評価の公平性が確保されている。また、成績評価に関する問い合わせに対して、教員が事務局と連携しながら対応すること等を通じて適切性をチェックしている。論文審査基準は履修ガイドに示され、更にガイダンスで説明周知される。学位授与状況は、専攻会議・教授会での判定時にチェックされている。学位の水準を保つために審査会が開催され、そこで最終的な判定を行っている。加えて、博士論文では、外部評価された成果を必須とすることで、水準維持を行っている。これらの水準維持に寄与する審査会は、法政大学学位規則と研究科が定める基準に則り、適切に行われている。学生の進路については、就職担当教員を配置すると共に、キャリアセンターとも協力し研究科内で把握・共有している。</p>
<p>分野の特性を考慮し、建築学専攻では、外部審査員の参加の下での学習成果の評価をしている。都市環境デザイン工学専攻では、修士論文審査会の評価結果で表彰を行っている。また、システムデザイン専攻では学外コンペにおける審査状況を把握している。学習成果はGPAにより把握すると共に、研究の進捗度は修士課程では中間発表や中間審査によって、博士後期課程では学術論文の執筆状況により確認している。学習成果の定期的検証とそれを踏まえた教育改善の取り組みは専攻ごとに行われているが、建築学専攻の外部審査員による検証などの取り組みは特に優れていると言えよう。授業改善アンケートの結果は、専攻会議で整理・分析のうえ、教授会で報告・確認されている。以上から、おおむね全項目について適切な取り組みが行われていると評価できる。</p>
2 教員・教員組織の評価
<p>デザイン工学研究科におけるFD活動は、学内外の研修会・講演会・ワークショップへの教員派遣と、専攻内での情報共有と議論を中心に行われている。建築学専攻ではJABEE認定プログラムの基準を満たすために専攻内で多様なFD活動が行われている。都市環境デザイン工学専攻では、FD活動の一環として教育改善に目標を絞込んだWGを設置している。システムデザイン専攻では、プロジェクト科目の教育内容を定期的に検証し、教育方法の改善について議論している。以上のことから、組織的なFD活動が適切に行われていると評価できる。</p>
<p>研究活動や社会貢献における教員の資質向上には、主として内外で開催される研究集会を活用している。更に、外国人客員教員の受け入れ、在外研究の推奨、海外研修プログラムでのワークショップ開催など、世界標準レベルでの研究能力の維持にも努めている。</p>
2018 年度目標の達成状況に関する所見
<p>海外研修プログラムの検証及び改善、造形製作室の整備による授業環境の向上、修士論文の学外発表等の成果の「見える化」等、多くの目標が達成できたことは評価できる。重点目標達成のために予定されていたSGUプログラム設置準備委員会は、ワーキンググループの活動に留まり、設置には至らなかったが、この点はグローバル化の在り方として、今後の</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>議論の深化が望まれる。教授会のペーパーレス化は時代に応じた適切な対応である。留学生に対する支援を強化する意味で、チューター制度の活用は即効性のある対応であると評価できるが、質保証委員会による「改善のための提言」にもある通り、さらに幅広い支援策の検討も必要であろう。社会貢献、社会連携の成果をHPで公開し「見える化」を達成したことで、今後これらの活動がより活性化されることが期待される。</p>
<p>2019年度中期・年度目標に関する所見</p> <p>デザイン工学研究科における、2019年度中期・年度目標各項目の目標設定自体はおおむね適切と思われるが、目標達成に取り組む主体が具体的に見え、達成指標がわかりづらいと思われる。それに関連して、各目標の達成指標が、「留学生数の1割増」のように具体的なものもある一方で、いくつかの項目では調査結果や効果的施策の「共有（教授会）」という表現に留まり、中期目標の最終年度である2021年度に向けてどう取り組みを進めるのかが不鮮明と思われる。この表現は達成指標として適切かという疑問を感じた。教授会での情報共有はあくまでプロセスであり、「教授会で共有」することで「**」する、という記述が望ましいと考える。</p>
<p>法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況</p> <p>特になし</p>
<p>総評</p> <p>デザイン工学研究科では、全般的に適切な取り組みが行われていると評価できる。2018年度の重点目標に挙げられていたSGUプログラム設置準備委員会の立ち上げは見送られたものの、「I 2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価」にも記述があるように、グローバル化については、新規の英語授業設置ではなく、既存のプログラム上での実現を目指す理科系学部として、今後の方針決定に期待したい。また、年度目標に対する達成指標をより明確に記述することが望まれる。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。